

令和7年度 第2回静岡県インフラビジョン推進会議 会議録

日 時	令和8年1月23日（金） 10時30分 ～ 12時
場 所	県庁本館4階 401会議室
出席者氏名	<p>○ 委員</p> <p>内海 佐和子（静岡県立大学経営情報学部 教授） 川島 康明（一般財団法人静岡経済研究所 理事 研究部長） 五味 響子（しずおか流域ネットワーク 副会長） 下川 澄雄（日本大学理工学部 教授） 原田 賢治（国立大学法人静岡大学防災総合センター 准教授） 日詰 一幸（国立大学法人静岡大学 学長）【委員長】 平井 一之（一般社団法人静岡県環境資源協会 会長） （敬称略、五十音順）</p> <p>その他、行政委員（庁内関係課長）8名 羽田交通基盤部理事、政策管理局建設政策課（事務局）</p>
議 題	「静岡県インフラビジョン（案）」について
配布資料	<p>1 次第、名簿、座席表</p> <p>2 静岡県インフラビジョン（案）</p>

議 事 概 要

- 環境・景観の3つのテーマにサーキュラーエコノミーが入ったのは良かった。
- クロマツには松くい虫に食われる被害が多い。どんどん植えていくことが良いことか気になった。
→松くい虫については承知している。過酷な環境であるため、塩に強いクロマツを主体に植樹しているが、クロマツ以外も植樹し、対応することとしている。
- 環境省も2050年カーボンニュートラルはしっかりやっていくことになっているので引き続き推進してほしい。
- カーボンクレジットを活用することは、お金になる取組としても重要である。
→50万haの森林面積のうち、県管理森林はわずかであるが、Jクレジットを取得し販売を始めている。
- インフラマネジメントは概念が広い。何を意味するかを明示した方が分かりやすいのではないか。
- 「整備・管理・活用を刷新し」とあるが、どう刷新したら良いかを明示すべきではないか。
- 世界情勢が不安定で人々の不安が大きいが、自分たち地域だけが良ければよい

訳でないという考え方を皆に持ってほしい。

- インフラが維持管理されていくとまちづくりにも防災対策にも自然対策にも役立つということを「共創」の部分にもっと出してもよいのではないか。
- インフラビジョンとして取組としてはまとまっているが、一步踏み込む先があっても良いのではないか。例えば関連Webページのリンク先などQRコードを表示してみたらよい。
- こども若者の意見聴取の意見結果が掲載されたのが興味深い。若い人向けの視点が今後もあると良い。
- 「相互に複雑に関連している」との文言を入れる位置を変えた方が分かりやすい。
- 維持管理更新費の将来推計が古く見える。人件費の高騰などが考えられるのでデータ更新できたら良い。
→現在、各施設の長寿命化計画を改定中であり、来年度中にまとまるため、更新していく。